

容器包装リサイクル制度を取り巻く現状

- 1 ごみ及び容器包装廃棄物の排出状況
- 2 分別収集の実績
- 3 容器包装廃棄物の再商品化
- 4 特定事業者に関する状況
- 5 改正容器包装リサイクル法の各種取組状況

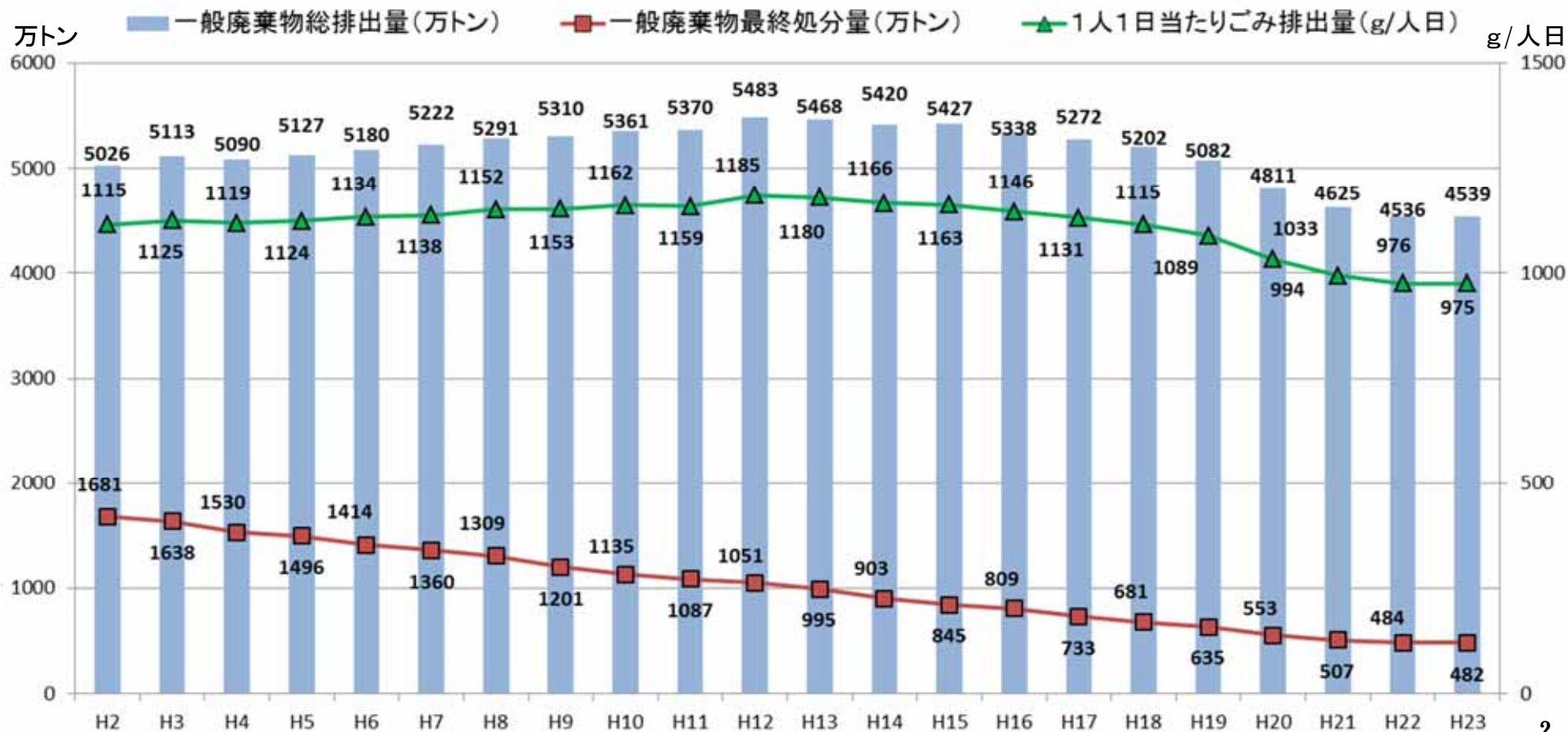
1 ごみ及び容器包装廃棄物の排出状況

我が国のごみの排出量は、平成12年度をピークに減少しており、平成23年度においては、4,539万トンとなっている。

このうち、容器包装廃棄物が占める割合は容積比で約54%、湿重量比で約24%となっており、約60%を占めると言われていた容積比は減少している。

1人1日当たりごみ排出量は、直近は975gと、法制定時（平成7年。1138g）から14%、ピーク時（平成12年。1,185g）から約18%、減少している。

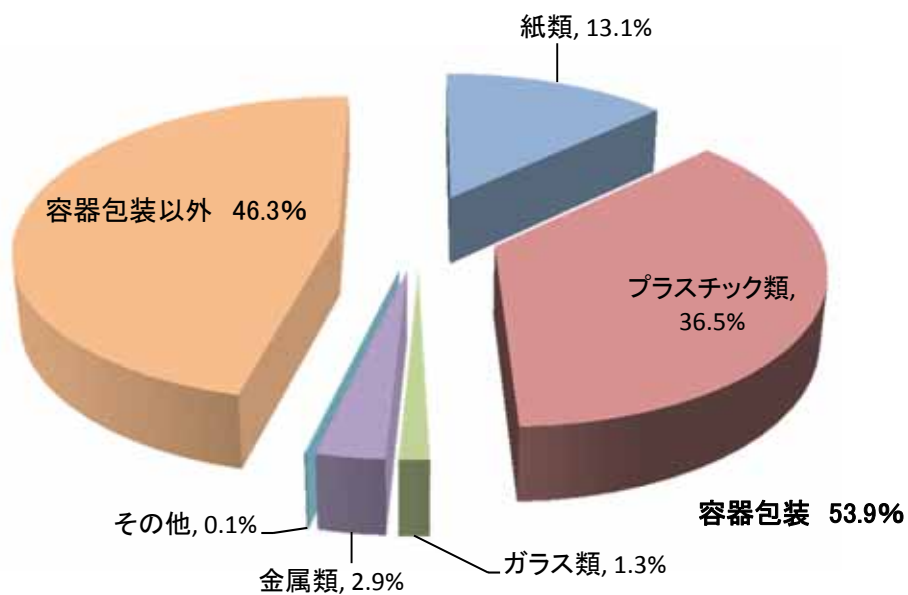
1-1 一般廃棄物総排出量・一般廃棄物最終処分量・1人1日当たりごみ排出量



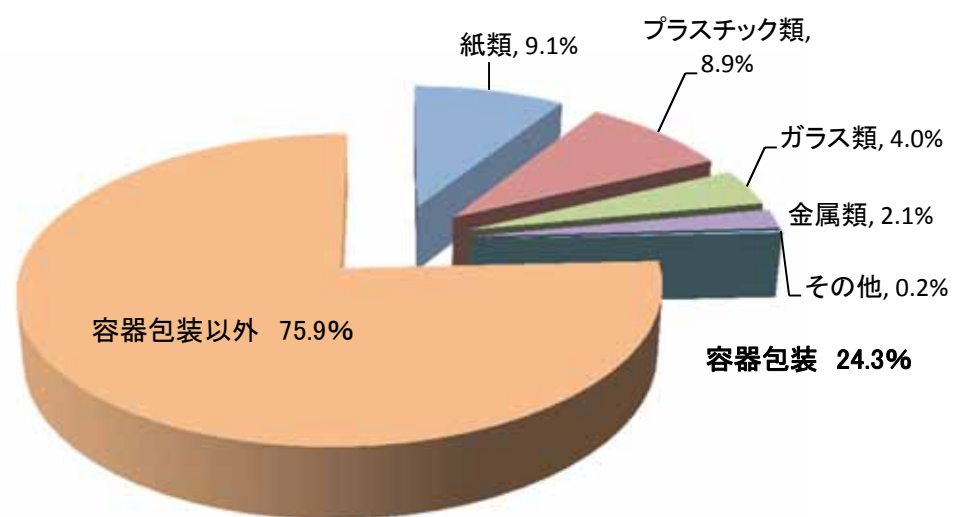
出典：環境省「日本の廃棄物処理」

1-2 家庭ごみ中の容器包装廃棄物の割合(平成24年度)

(1)容積比



(2)湿重量比



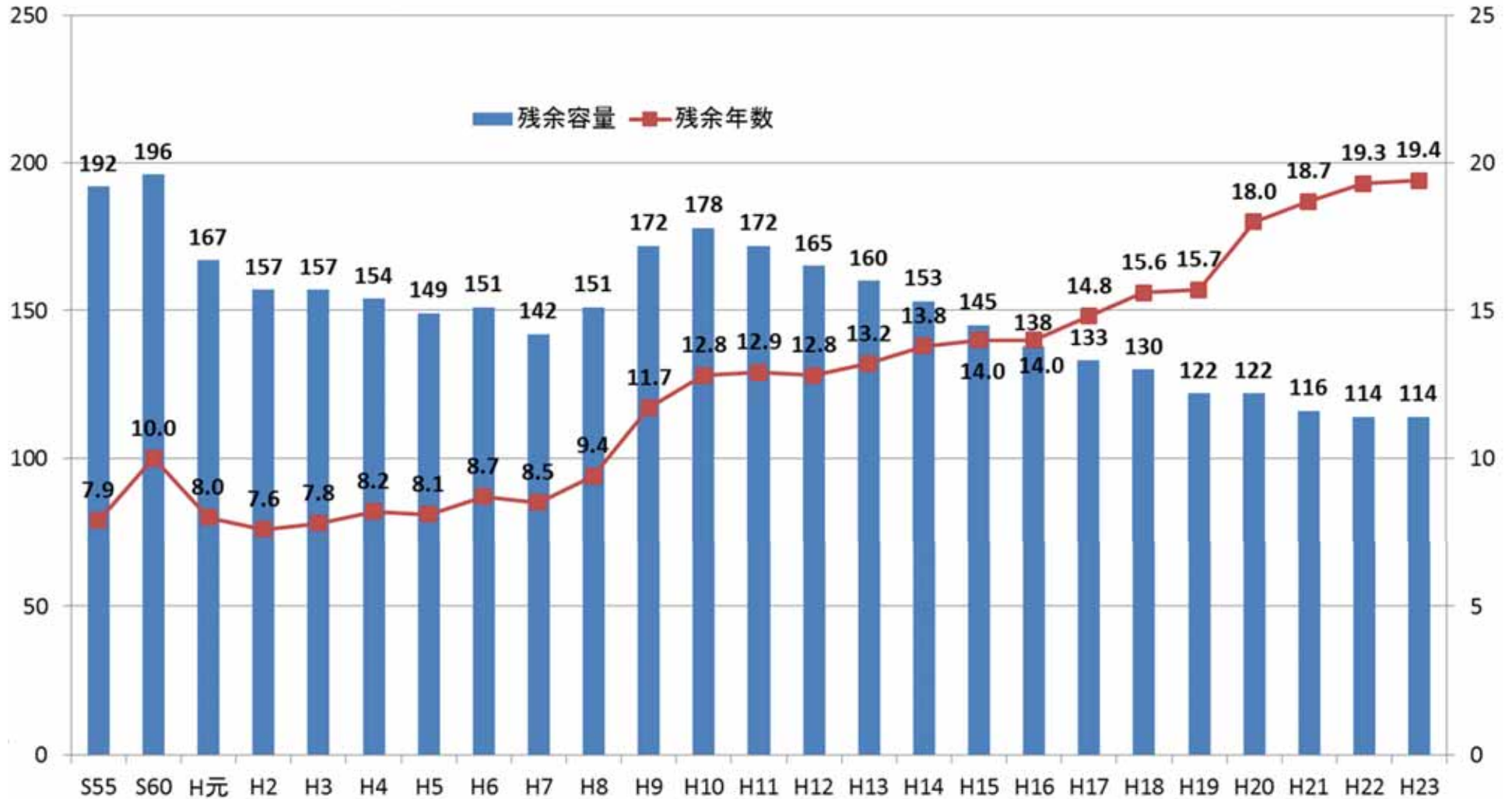
※四捨五入のため合計値が合わないことがある。

出典:環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査」

1-3 一般廃棄物最終処分場の状況

残余容量(百万m³)

残余年数(年)

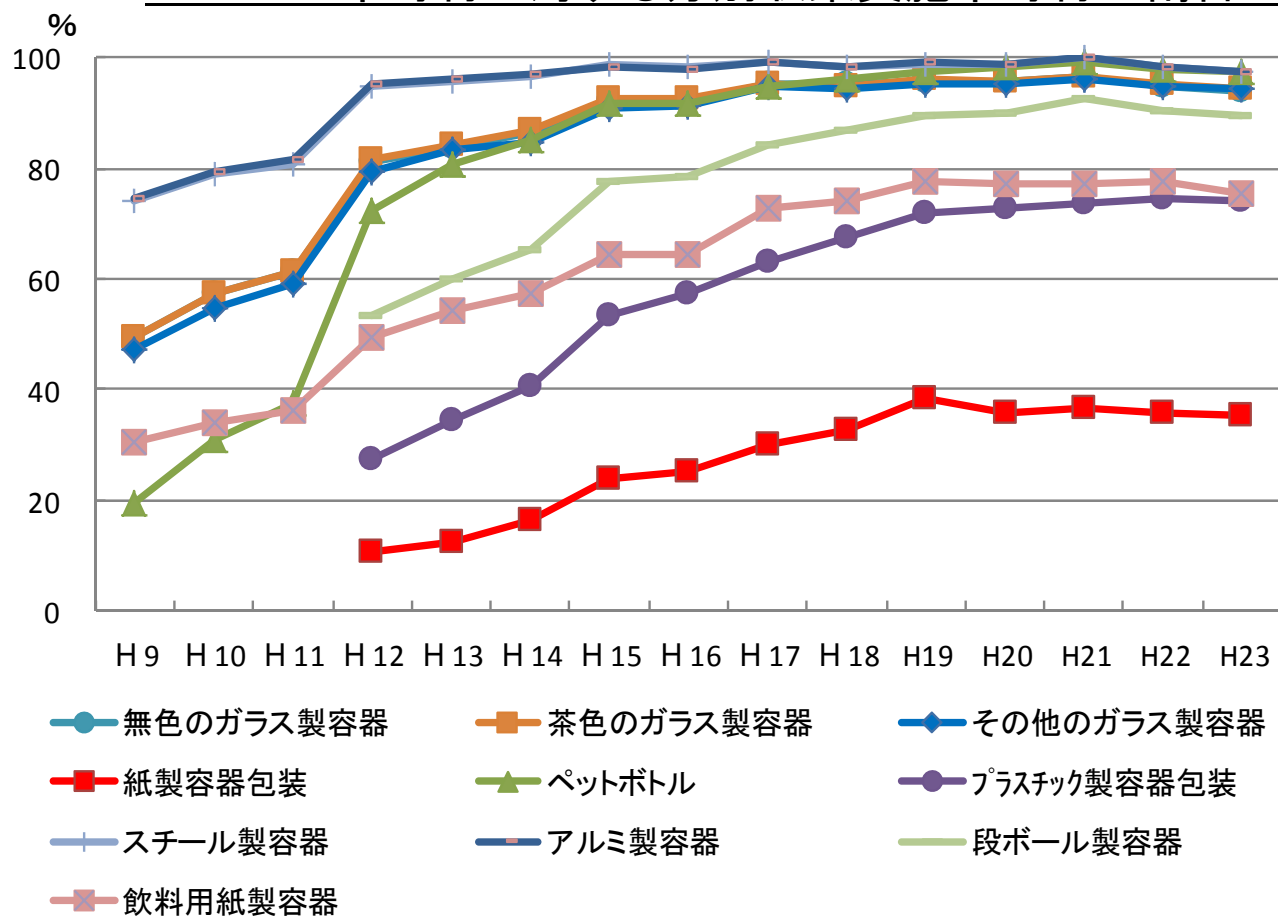


出典:環境省「日本の廃棄物処理」

2 分別収集の実績

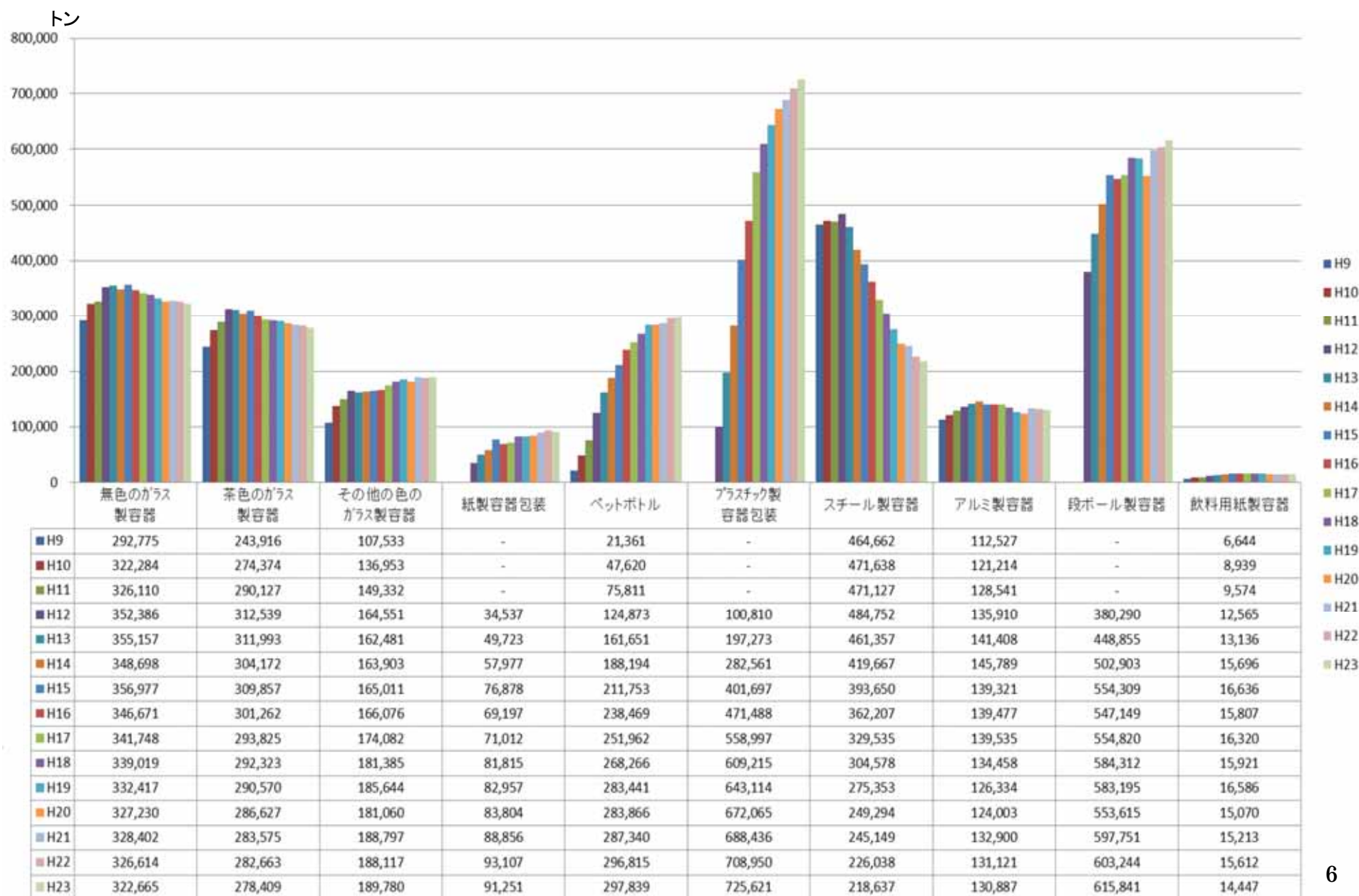
分別収集実施市町村の割合はガラス製容器、ペットボトル、スチール缶、アルミ缶については9割を超えているが、紙製容器包装は低い割合であり、プラスチック製容器包装は近年横ばいである。分別収集量は全体量は増加しており、特に、ペットボトルの分別収集量が増加している。

2-1 全市町村に対する分別収集実施市町村の割合の推移



品目	H23年度 実施割合 (%)
無色のガラス製容器	94.1
茶色のガラス製容器	94.3
その他のガラス製容器	94.5
紙製容器包装	35.2
ペットボトル	97.2
プラスチック製容器包装	74.2
(うち白色トレイ)	29.1
スチール製容器	97.5
アルミ製容器	97.5
段ボール製容器	89.6
飲料用紙製容器	75.4

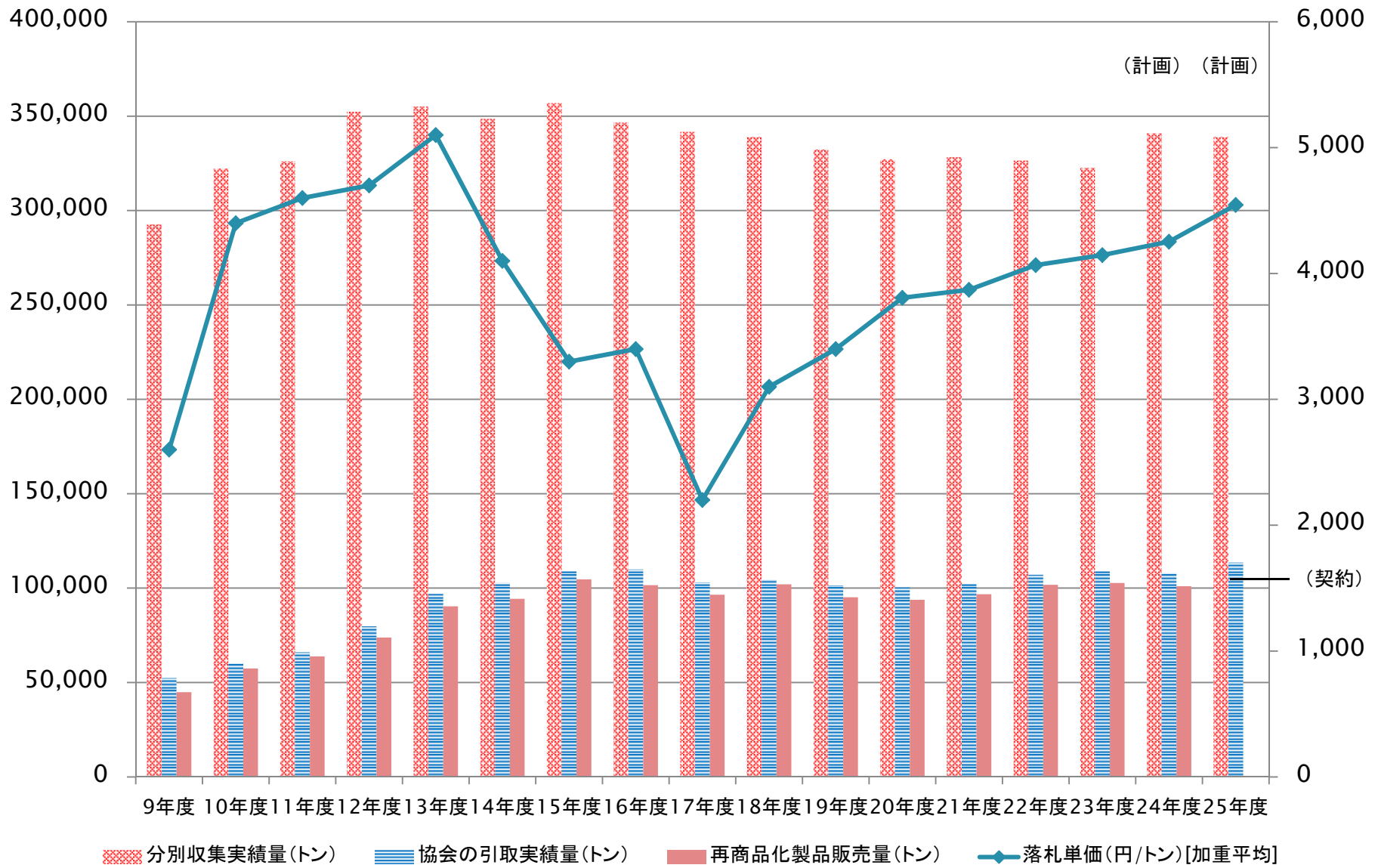
2-2 年度別分別収集実績量



収集実績量等(トン)

無色のガラス製容器

落札単価(円/トン)



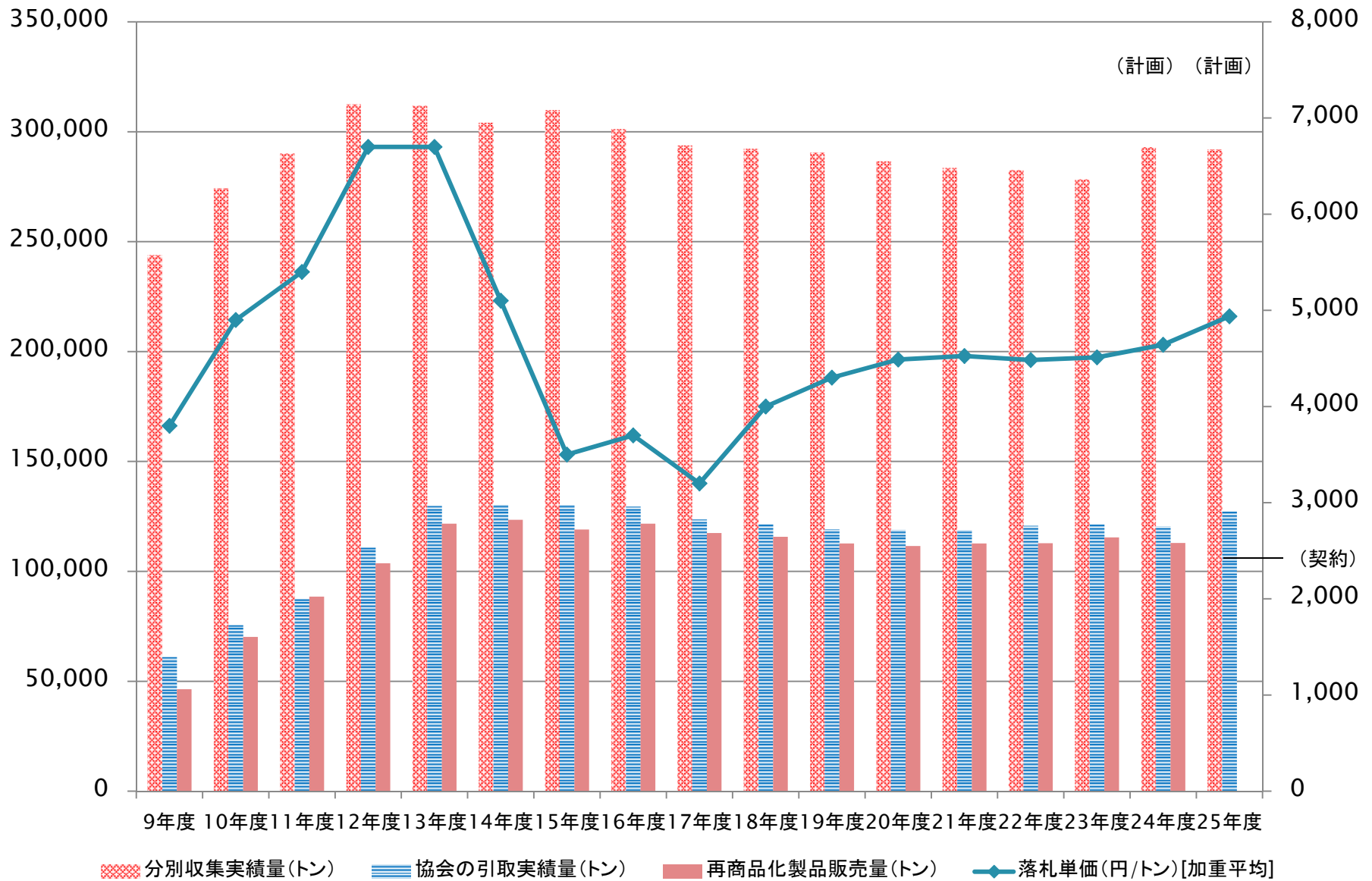
※24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。

出典：(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

収集実績量等(トン)

茶色のガラス製容器

落札単価(円/トン)



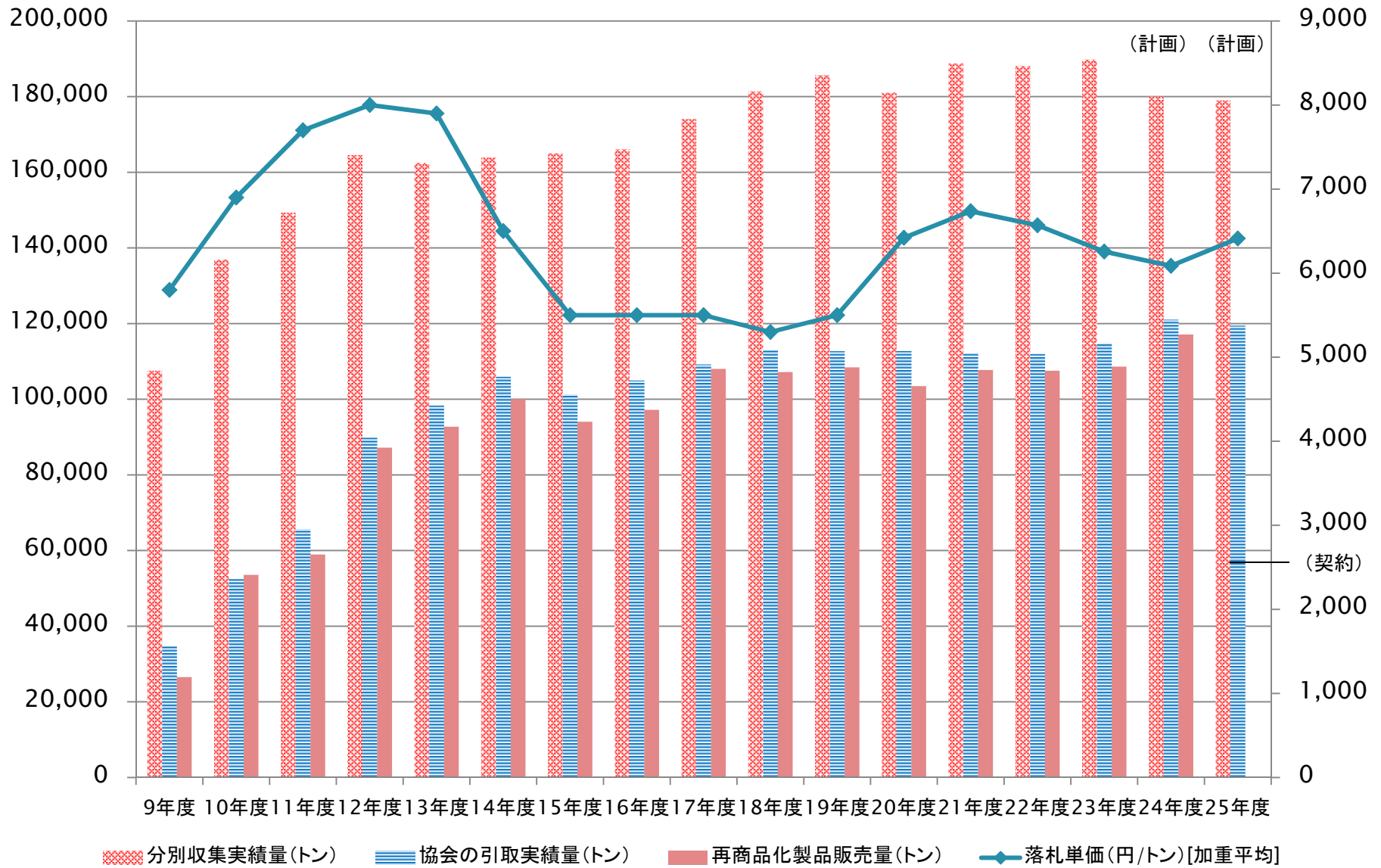
※24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。

出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

その他のガラス製容器

収集実績量等(トン)

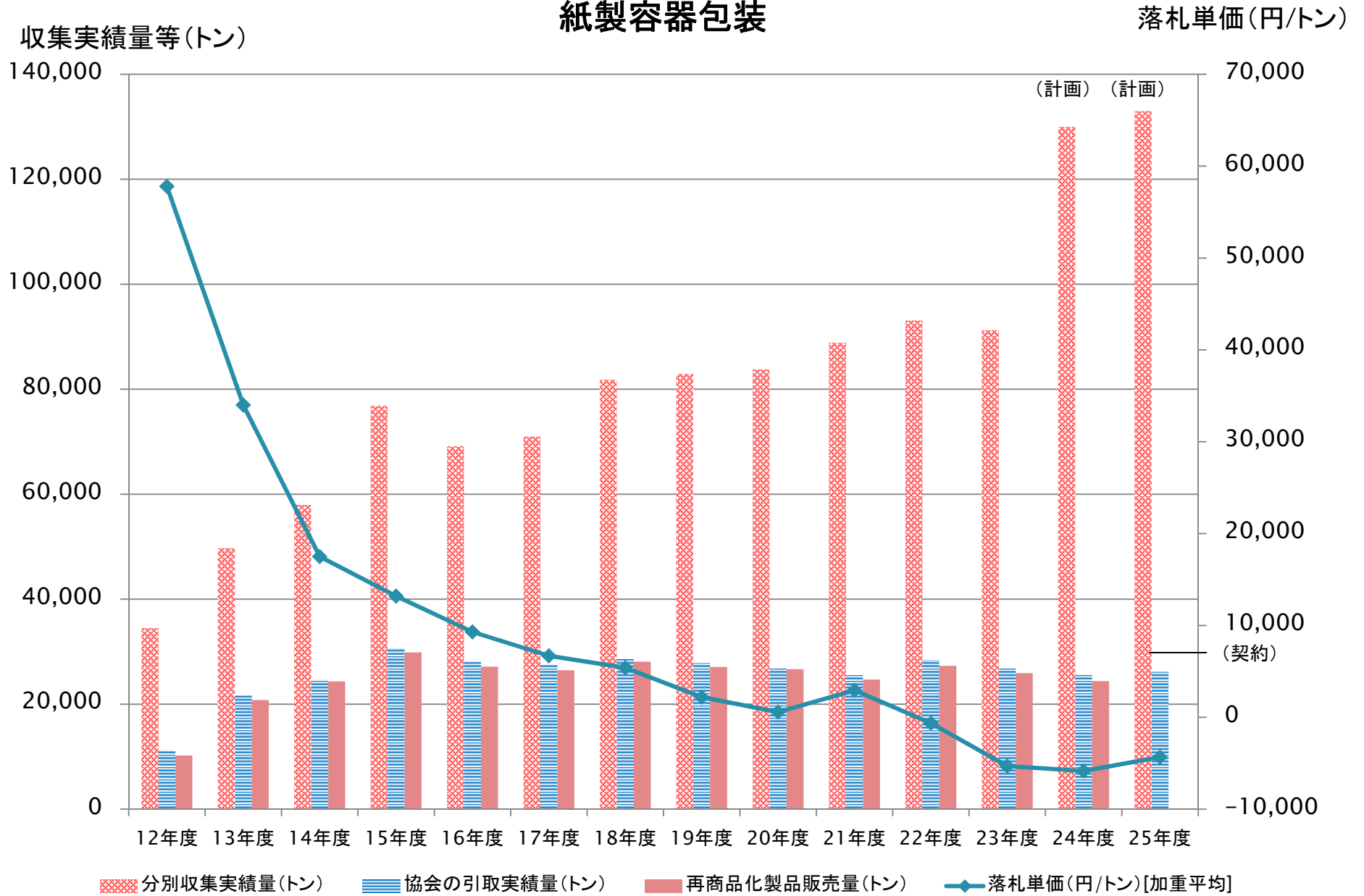
落札単価(円/トン)



※24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。

出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

紙製容器包装



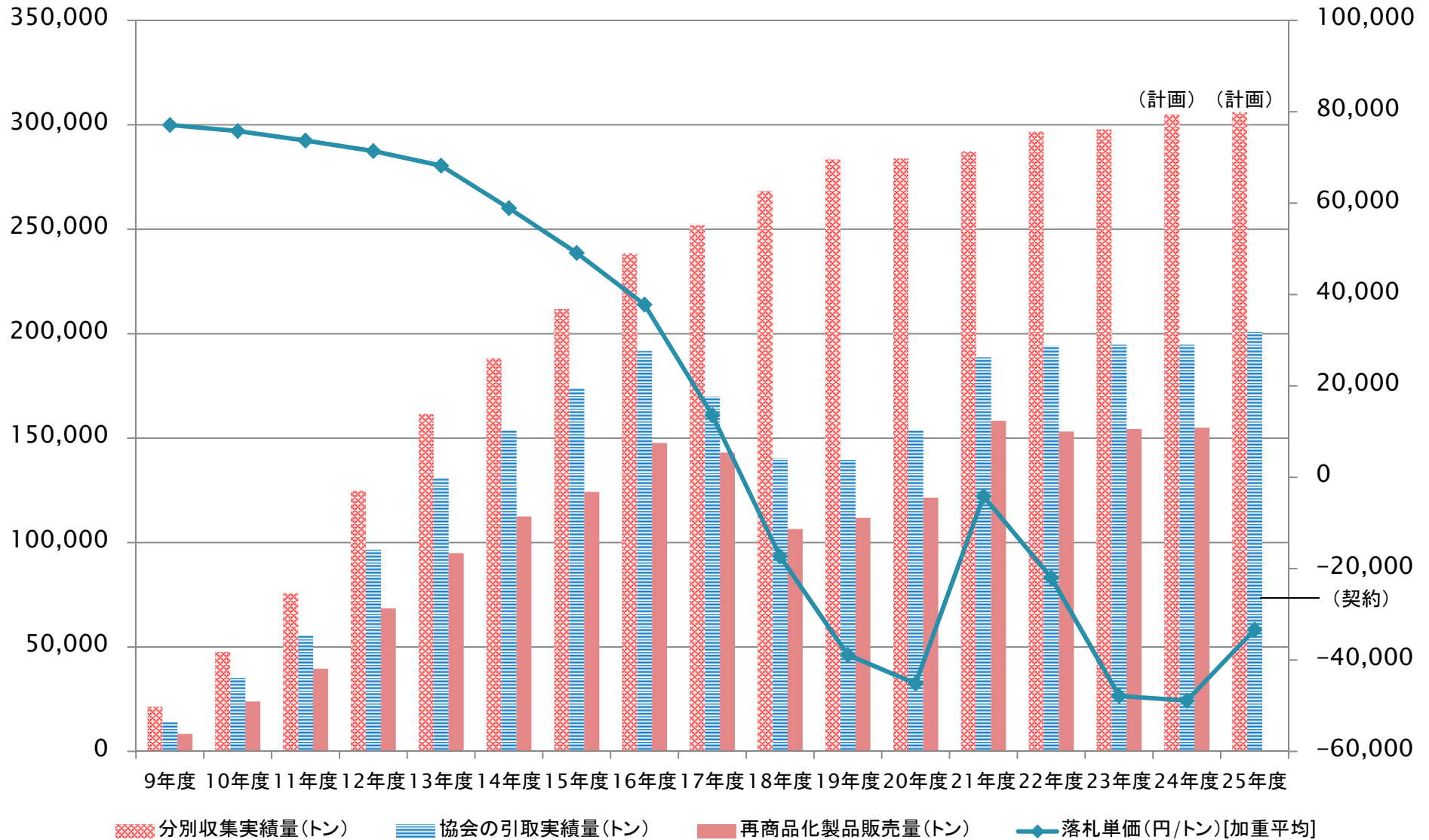
※24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。

出典：(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

ペットボトル

収集実績量等(トン)

落札単価(円/トン)



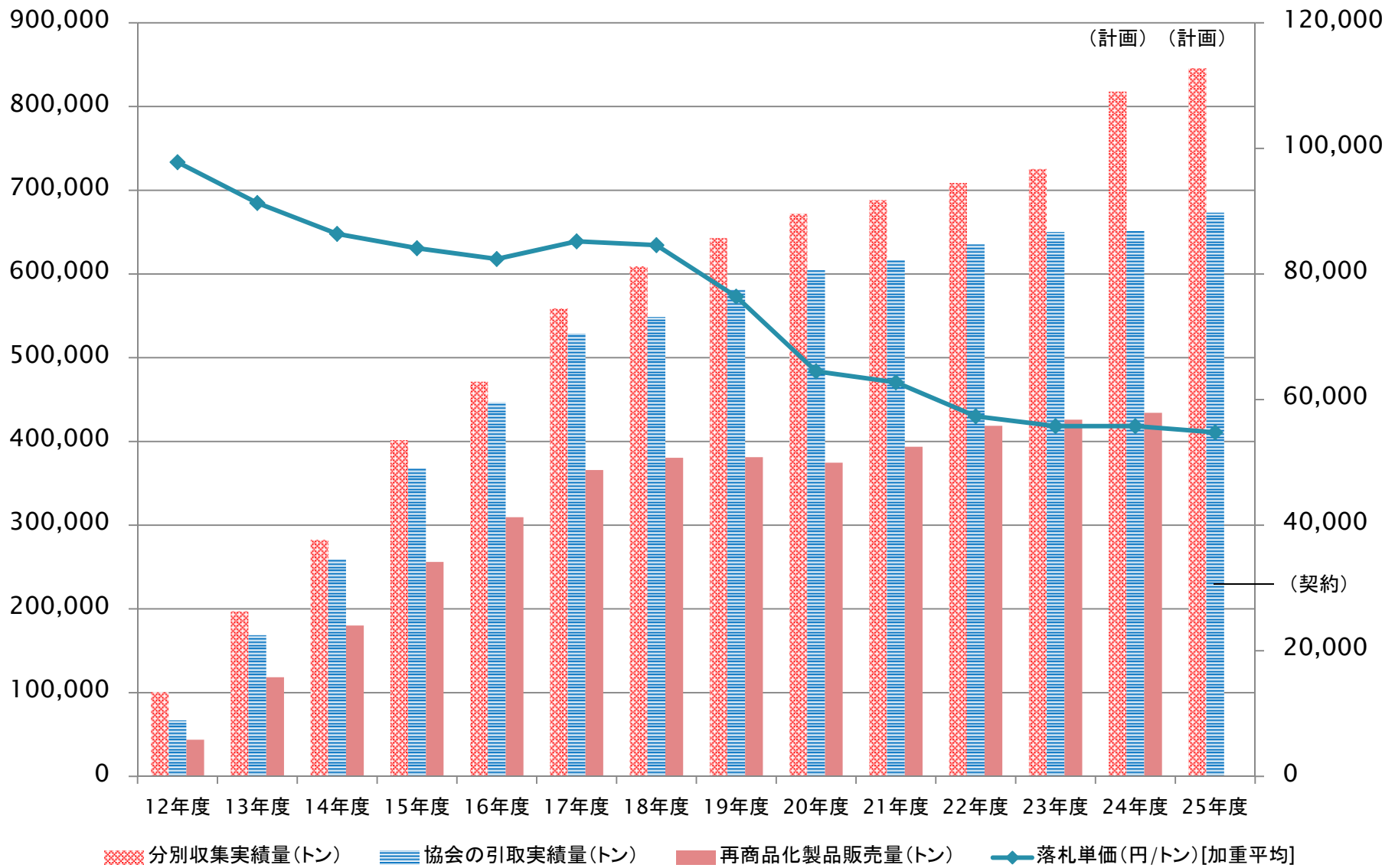
※24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。20年度の協会引取実績量は期中追加分を含む。
 ※25年度は上期・下期の年2回入札。25年度の市町村分別収集計画量及び協会引取契約量は上期・下期の合計。
 ※25年度の落札価格は上期(-21,278円)と下期(-48,256円:速報値)の加重平均。

出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

収集実績量等(トン)

プラスチック製容器包装

落札単価(円/トン)



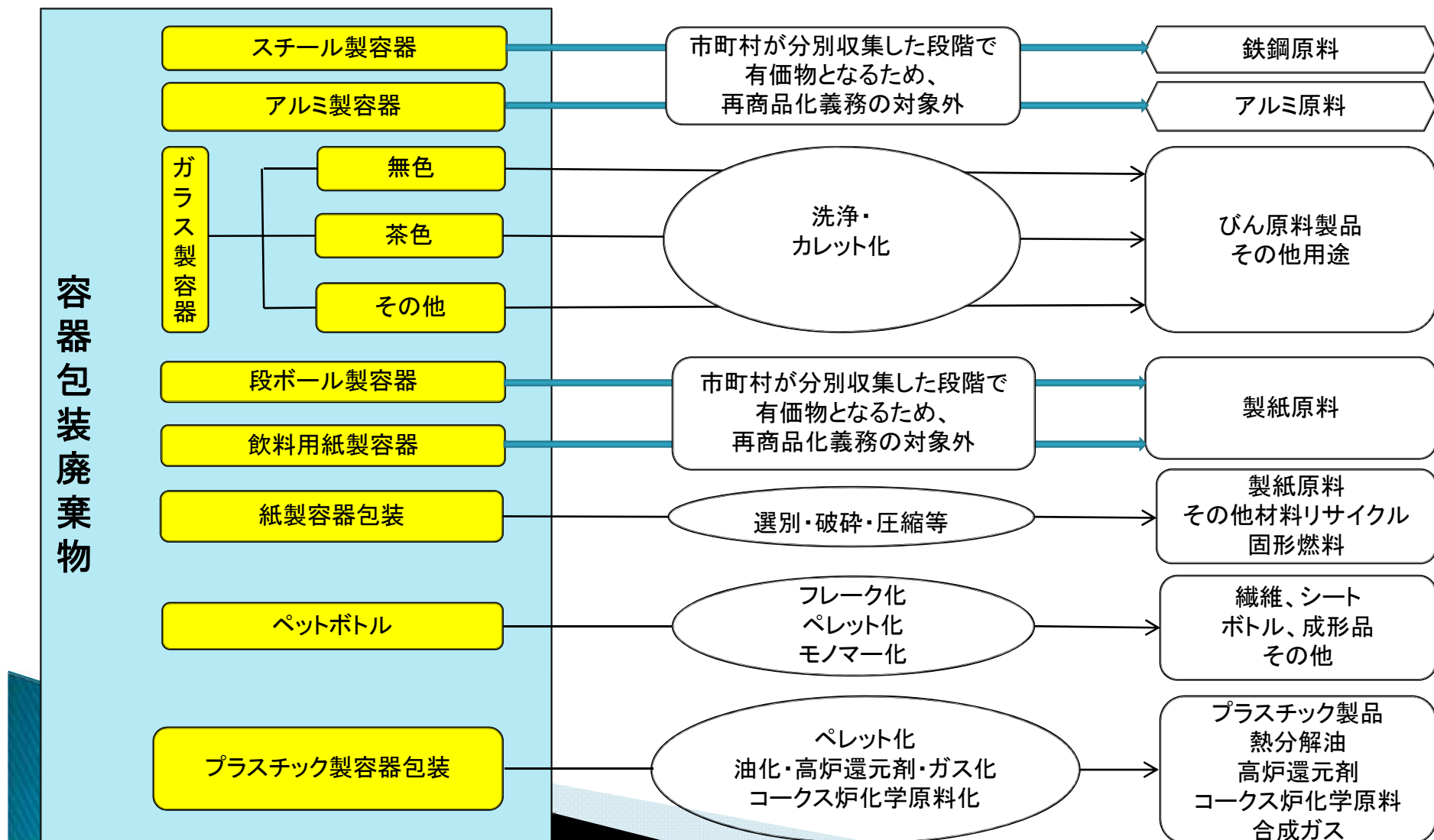
※24年度と25年度の分別収集実績量は計画量、25年度の協会引取実績量は契約量。

出典：(公財)日本容器包装リサイクル協会、環境省(分別収集実績量)

3 容器包装廃棄物の再商品化

容器包装廃棄物の再商品化については、以下のとおり素材の特性に応じたリサイクルを行っている。

3-1 容器包装廃棄物の再商品化の方法



3-2 再商品化製品販売量

		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度	
		再商品化製品販売量 (トン)	構成比	再商品化製品販売量 (トン)	構成比	再商品化製品販売量 (トン)	構成比	再商品化製品販売量 (トン)	構成比	再商品化製品販売量 (トン)	構成比
ガラス製容器	びん原料	221,038	71.6%	232,038	73.2%	239,027	74.2%	244,208	74.7%	241,619	73.0%
	その他	87,814	28.4%	85,127	26.8%	83,063	25.8%	82,590	25.3%	89,397	27.0%
紙製容器包装	製紙原料	25,125	94.2%	22,564	91.4%	25,318	92.8%	24,437	94.3%	22,966	94.1%
	製紙原料以外の 材料リサイクル	262	1.0%	250	1.0%	253	0.9%	247	1.0%	14	0.1%
	固形燃料	1,274	4.8%	1,888	7.6%	1,726	6.3%	1,241	4.8%	1,422	5.8%
ペットボトル	繊維	67,685	55.7%	83,374	52.7%	79,824	52.1%	79,074	51.2%	74,605	48.1%
	シート	46,810	38.5%	61,441	38.8%	57,646	37.6%	59,563	38.6%	61,684	39.8%
	ボトル	3,278	2.7%	3,968	2.5%	8,940	5.8%	7,534	4.9%	12,343	8.0%
	成形品	2,965	2.4%	8,326	5.3%	6,443	4.2%	7,815	5.1%	6,027	3.9%
	その他	761	0.6%	1,187	0.7%	339	0.2%	370	0.2%	357	0.2%
プラスチック製容器包装 (白色トレイ除く)	プラスチック製品 (擬木、パレット等)	171,586	45.9%	170,899	43.4%	163,515	39.1%	170,183	39.9%	166,957	38.5%
	熱分解油(燃料油等)	2,730	0.7%	6,729	1.7%	1,057	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
	高炉還元剤	15,605	4.2%	25,751	6.5%	24,851	5.9%	24,131	5.7%	24,380	5.6%
	コークス炉化学原料	137,209	36.7%	145,035	36.8%	175,579	41.9%	179,759	42.2%	180,778	41.7%
	合成ガス (石油化学原料、燃料)	46,682	12.5%	44,583	11.3%	52,988	12.7%	51,364	12.1%	61,579	14.2%

出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会

ガラス製容器 再商品化製品

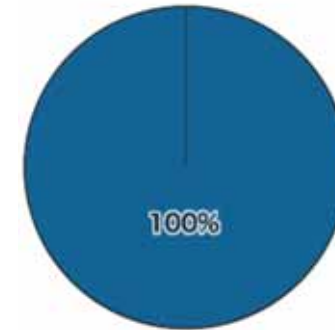
再商品化製品

「カレット」は、ガラスびんを原料用に細かく砕いたもので、リサイクル製品の原材料等(再商品化製品)の100%を占める。
 「カレット化」はラベルや異物を取り除いて色分別したカレットの状態にするガラスびんのリサイクル手法。

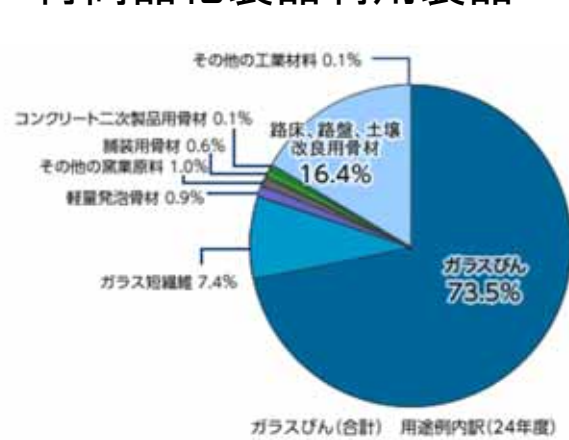
カレット



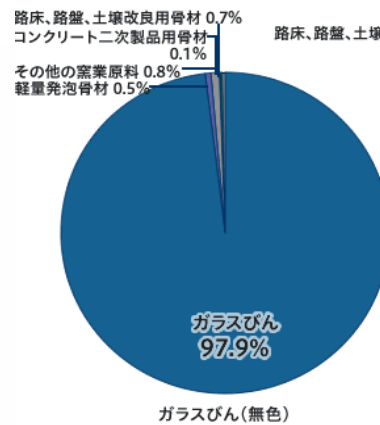
平成24年度 カレット(合計)



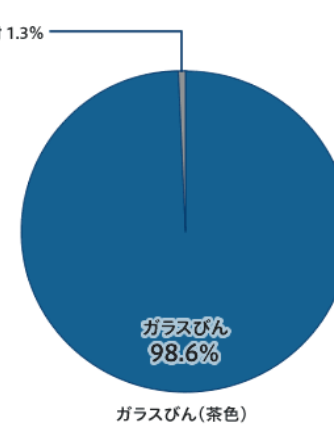
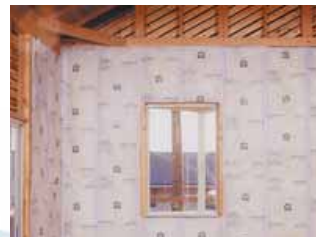
再商品化製品利用製品



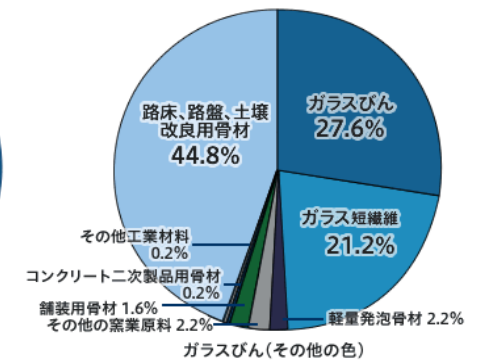
ガラスびん



ガラス短繊維(断熱材等)



路床、路盤、土壌改良用骨材(住宅の基礎等)



紙製容器包装 再商品化製品

製紙原料

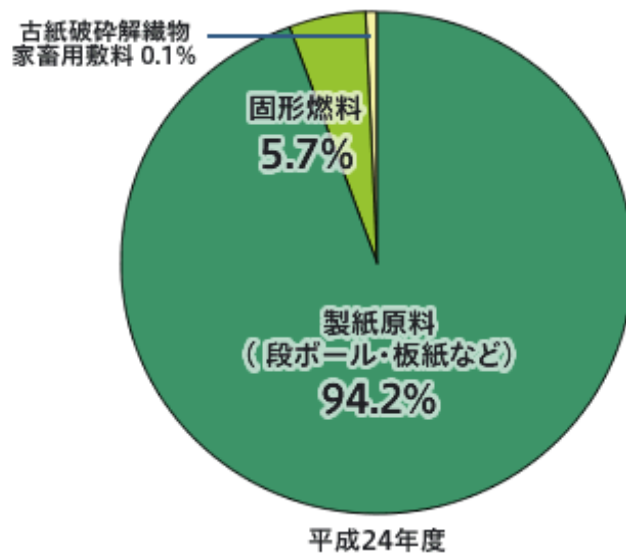
異物を取り除いたりする工程(選別)を経て、製紙原料に適すると判断されるもの。



板紙、段ボールの中芯などとして、製紙メーカーの板紙工場等で使用



古紙破碎解織物
家畜用敷料 0.1%



固形燃料

選別を経て、製紙原料に適さないと判断されたもの。製紙原料などの材料リサイクルと組み合わせる場合にのみ、紙と廃プラスチックを原料とした固形燃料へ再生することが認められている。



石炭の代替材料として製紙メーカー、セメント会社等で利用

古紙破碎解織物

異物を取り除いたりする工程(選別)を経て、古紙を細かく裁断した後、繊維をほぐしたものの。吸水性や通気性にすぐれていることから、家畜用敷料等として利用される。

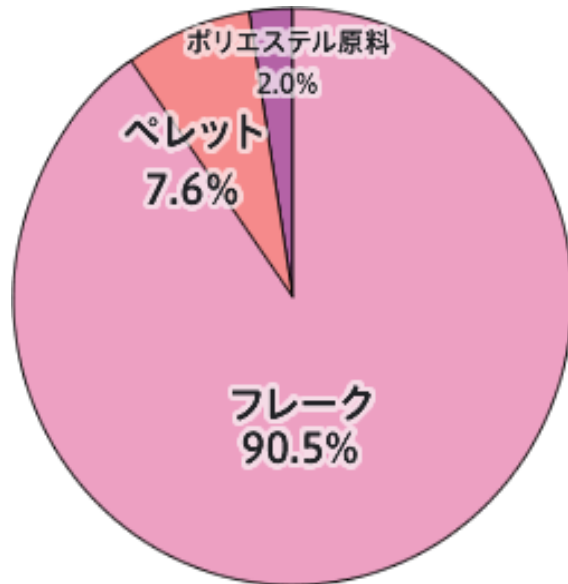


吸水性や通気性に優れていることから、家畜用敷料(敷きわら)として利用



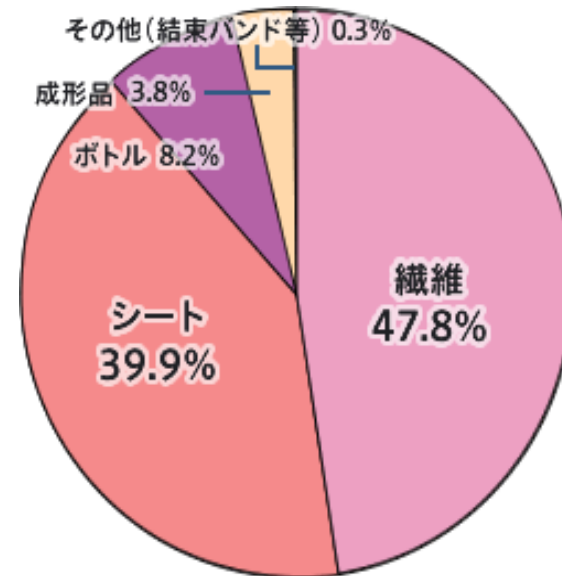
ペットボトル 再商品化製品

再商品化製品



平成24年度

再商品化製品利用製品

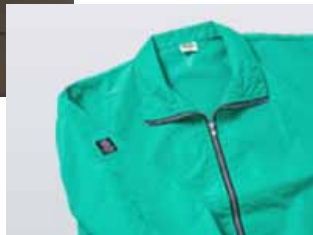


平成24年度

繊維



←自動車の天井・床等の内装材や、吸音材



ユニフォーム→

シート



←卵パック



ブリスターパック→

ボトル



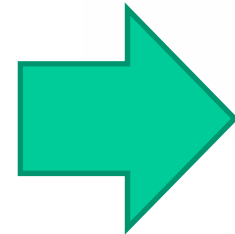
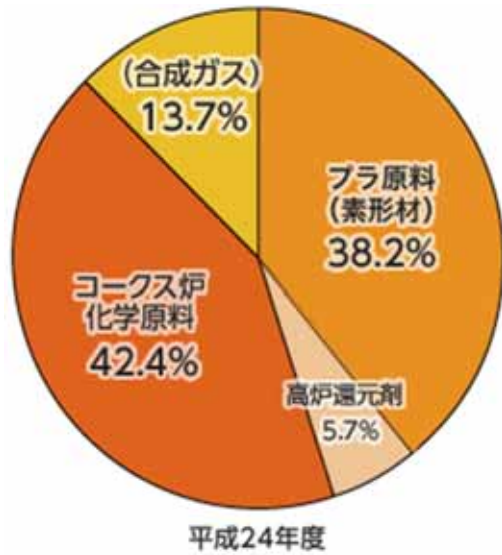
←洗剤用ボトル



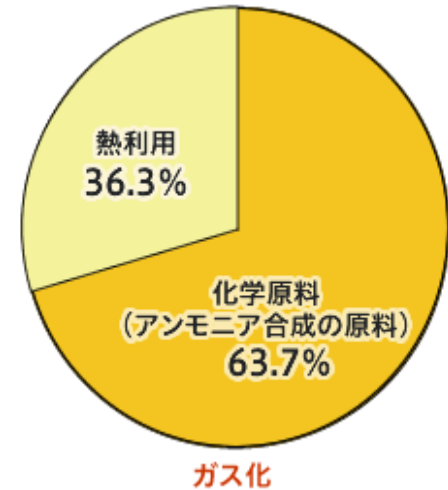
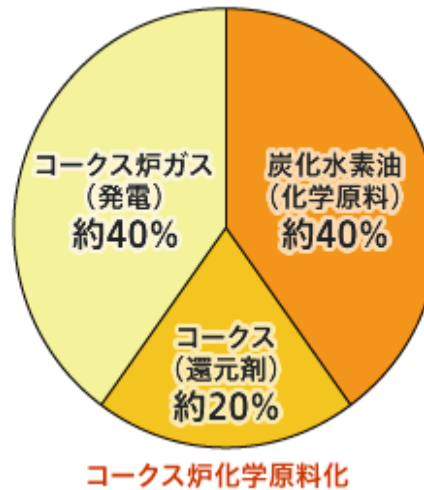
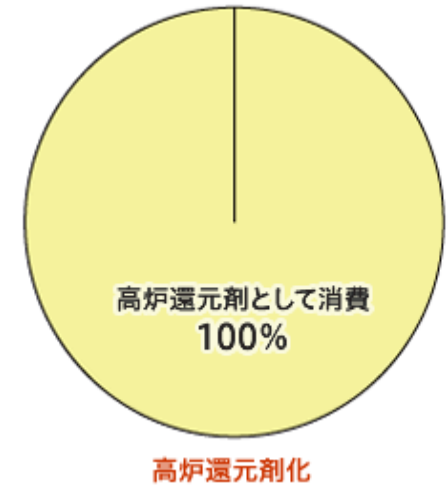
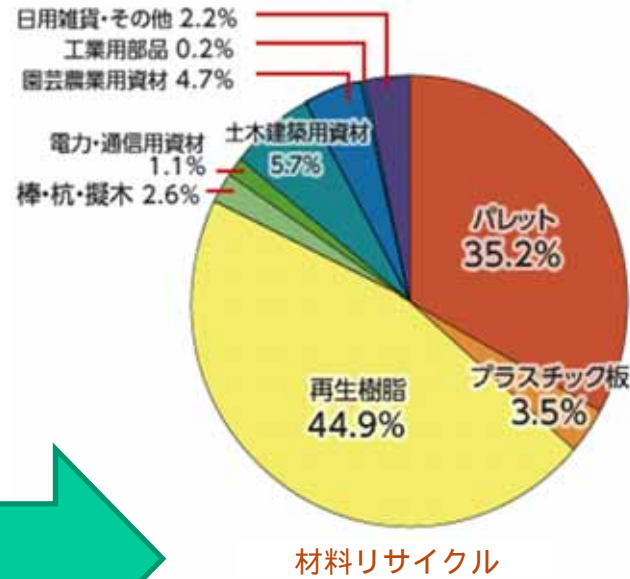
飲料用ボトル→

プラスチック製容器包装 再商品化製品

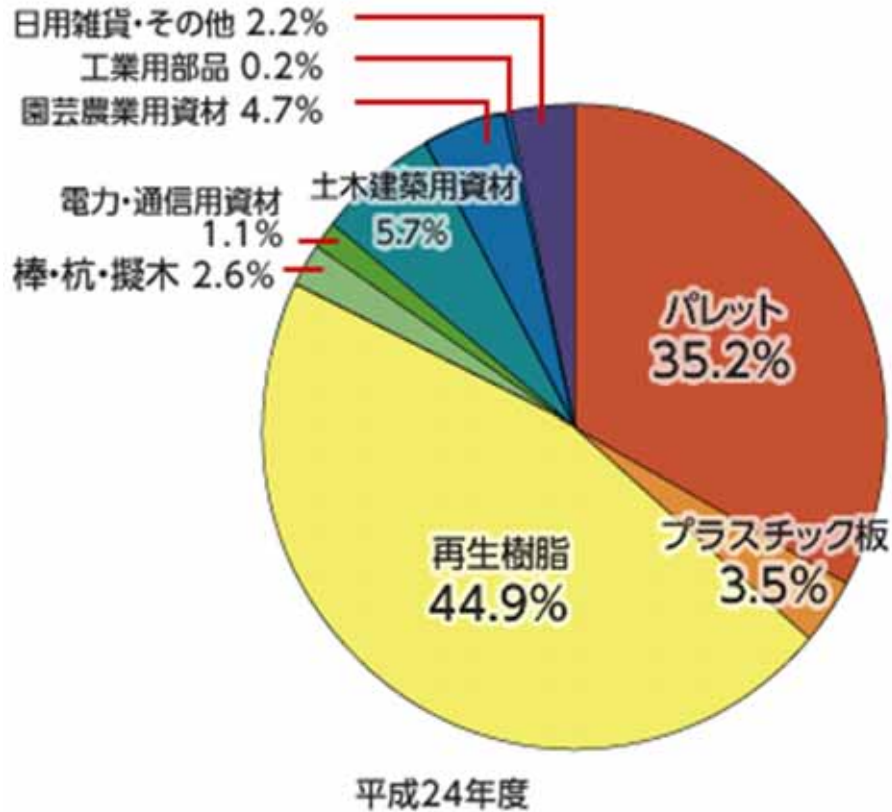
再商品化製品



再商品化製品利用製品



材料リサイクルにおける再商品化製品の利用用途



ハンガー



パレット



再生樹脂



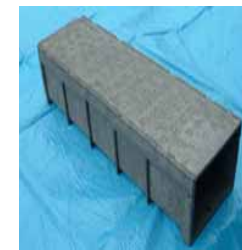
ペール



擬木



土木建築用資材
(例. 車止め)



ケーブルトラフ

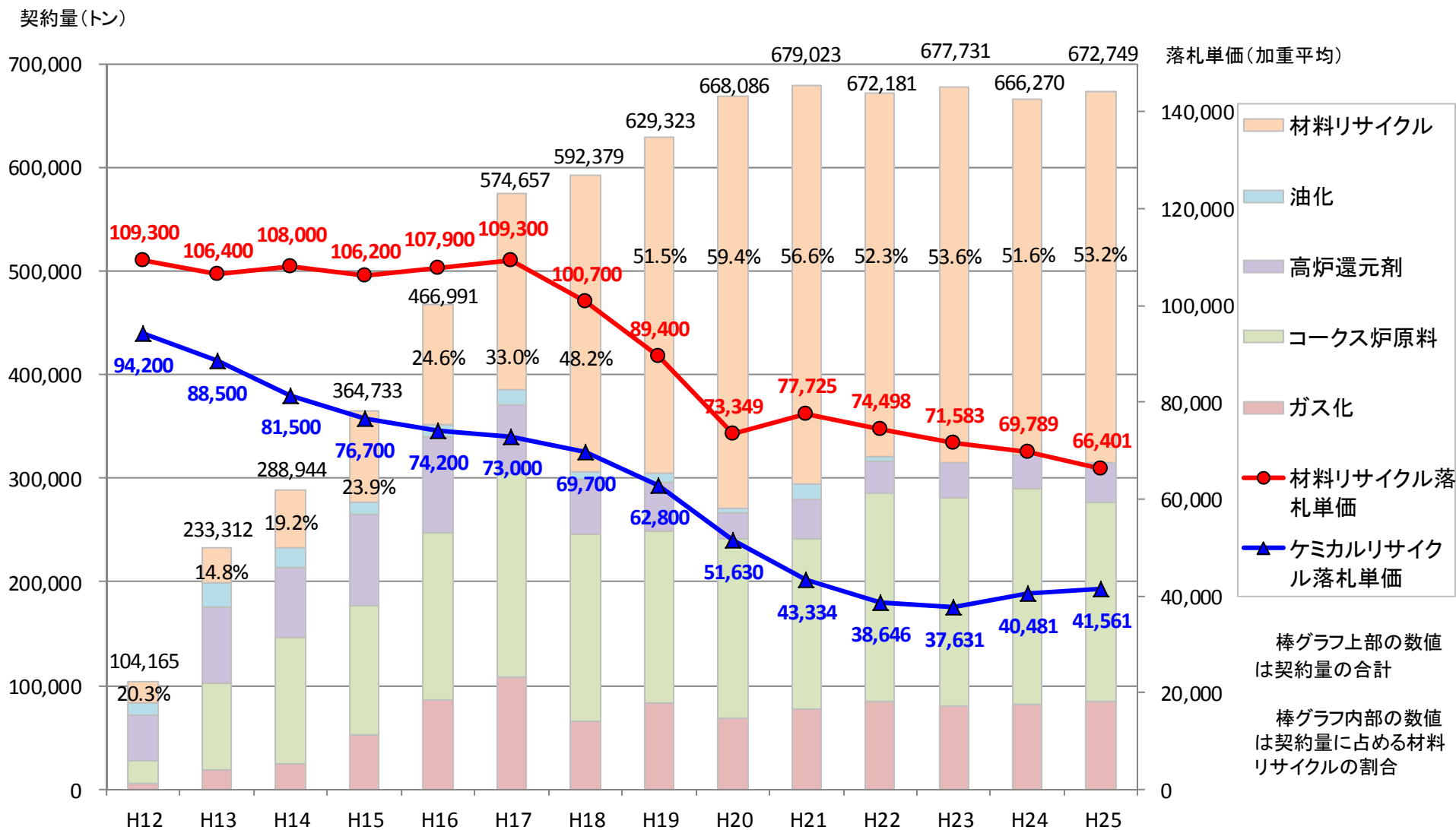


園芸農業用資材
(例. プランター)



日用雑貨
(例. ごみ袋)

3-6 プラスチック製容器包装の再商品化手法別落札量構成比の推移等(白色トレイを除く)



出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会

4 特定事業者に関する状況

(公財) 日本容器包装リサイクル協会と契約し、再商品化の義務を履行している特定事業者数は、ガラス製容器では減少しているが、紙製容器包装及びプラスチック製容器包装では増加しており、総数も増えている。

また、特定事業者が(公財) 日本容器包装リサイクル協会に支払っている委託額は、ペットボトルの有償化及びプラスチック製容器包装の委託単価の低減により平成18年をピークに減少し、近年は横ばい傾向である。

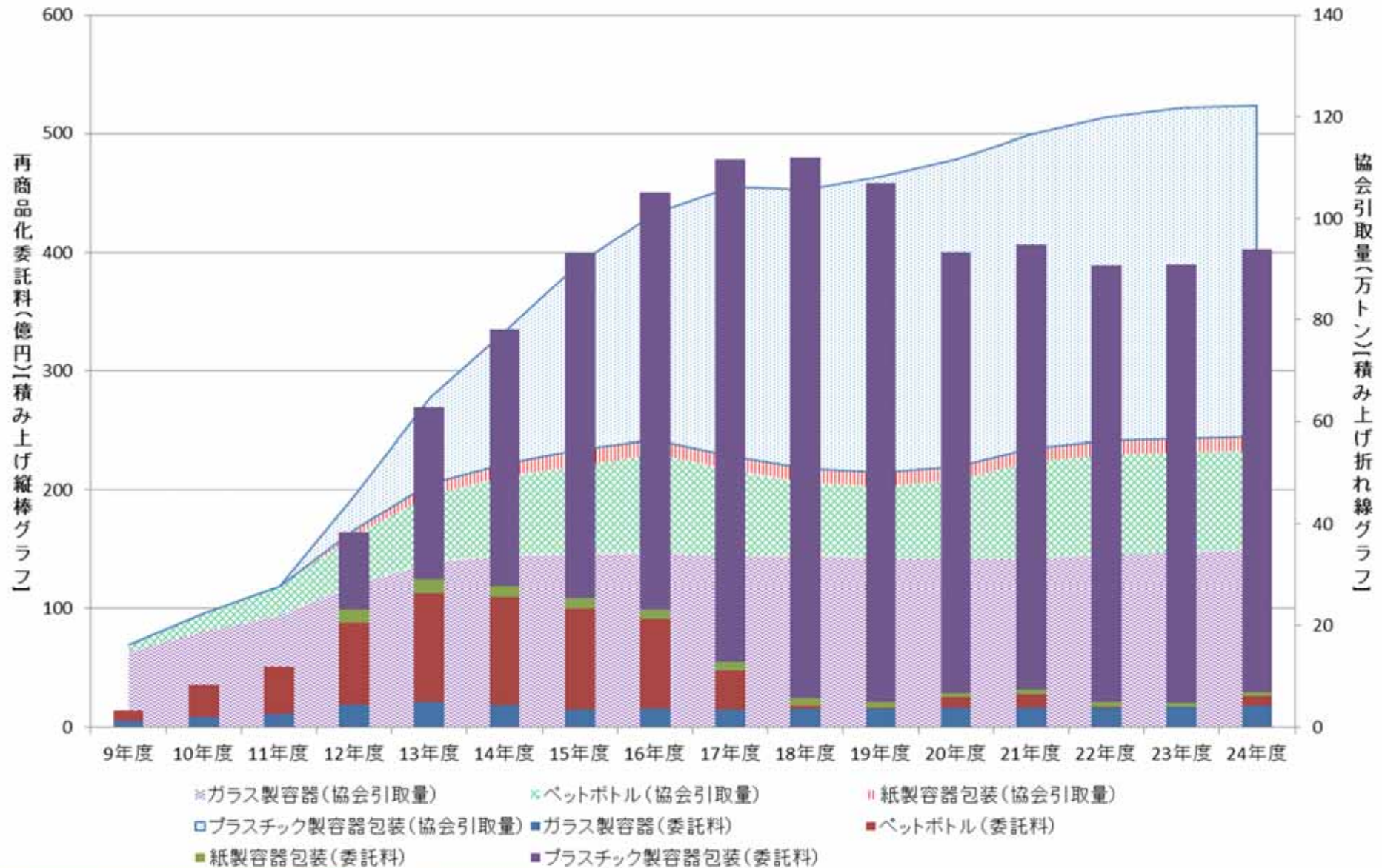
4-1 指定法人と契約し、再商品化義務を履行した特定事業者数

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
ガラス製容器	3,883	3,878	3,868	3,755	3,715	3,688	3,547	3,479	3,367	3,334
ペットボトル	1,377	1,311	1,352	1,256	1,292	1,353	1,353	1,340	1,319	1,306
紙製容器包装	47,281	47,927	48,630	48,378	52,597	52,519	52,902	53,928	55,064	56,648
プラスチック製容器包装	64,861	67,291	68,122	68,483	69,117	69,201	69,976	71,666	71,903	72,306
総数	67,196	69,648	70,540	70,831	71,409	71,329	72,014	73,557	73,659	74,371

※1者が複数品目申込んでいる場合もあるため、品目の合計値は総数とは合わない。

出典：(公財) 日本容器包装リサイクル協会

4-2 特定事業者が負担する委託額の推移



4-3 再商品化委託単価(単位:円/トン)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
無色のガラス製容器	2,800	2,600	3,900	3,800	3,300	4,100	3,800	4,200	3,900	4,000
茶色のガラス製容器	4,800	4,800	4,800	5,200	4,900	5,500	5,300	5,600	5,300	5,500
その他のガラス製容器	8,000	6,400	7,100	5,800	6,700	9,200	9,500	8,900	8,100	8,000
ペットボトル	48,000	31,200	9,100	1,800	1,800	1,700	4,200	3,600	3,400	4,500
紙製容器包装	19,200	12,600	20,400	12,500	15,500	13,300	16,000	13,000	12,000	12,000
プラスチック製容器包装	73,000	80,000	89,100	85,800	75,100	65,700	53,200	52,000	49,000	48,000

出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会

4-4 指定法人が再商品化を委託した再生処理事業者数

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
ガラス製容器	104	85	78	79	75	67	62	60	62	55
ペットボトル	59	48	46	50	※51	51	52	52	56	55
紙製容器包装	47	46	41	37	46	39	47	41	44	41
プラスチック製容器包装	74	84	75	92	82	85	79	74	65	65

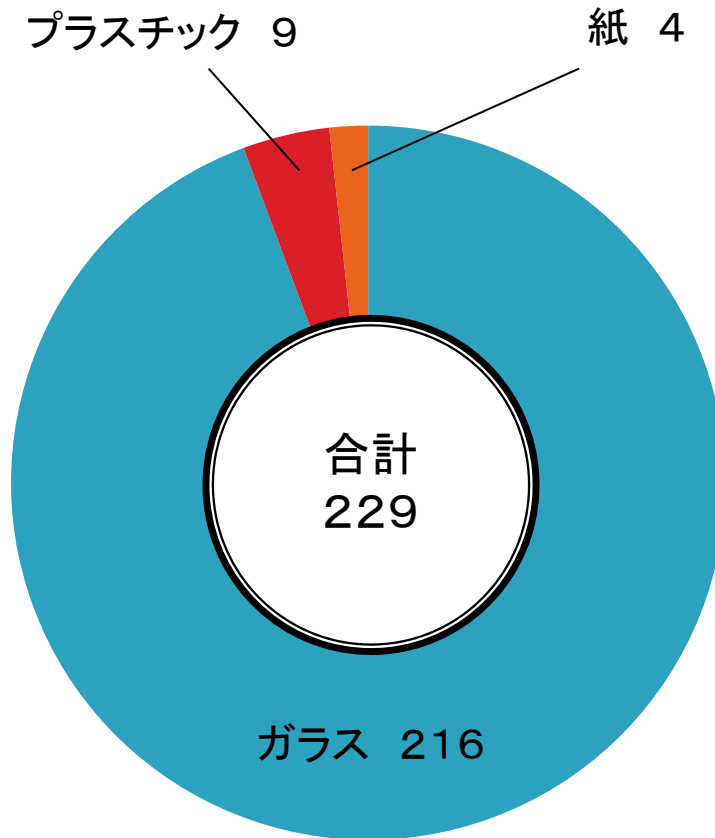
※ 期中追加分を含む

出典:(公財)日本容器包装リサイクル協会

4-5 特定容器の自主回収認定状況

認定事業者数(社)

70



素材別内訳(件数)

<素材毎の用途の例>

ガラス

- 牛乳用びん
- 炭酸飲料用びん
- 清涼飲料用びん
- 清酒用びん
- ビール用びん 等

プラスチック

- ガラスびん用キャップ
- 鶏卵パック 等

紙

- 鶏卵パック 等

※平成25年8月末時点

5 改正容器包装リサイクル法の各種取組状況

5 - 1 基本方針に「容器包装廃棄物の再商品化のための円滑な引渡し」に関する事項を追加

使用済ペットボトル等の再商品化のための 円滑な引き渡し等について

基本方針

使用済ペットボトル等の分別基準適合物を市町村が指定法人以外の処理事業者に引き渡す場合、以下のことが必要である

- 分別収集された容器包装廃棄物が環境保全対策に万全を期しつつ適正に処理されていること
- 市町村は、このような容器包装廃棄物の処理の状況等については、地域住民に対する情報提供に努めること

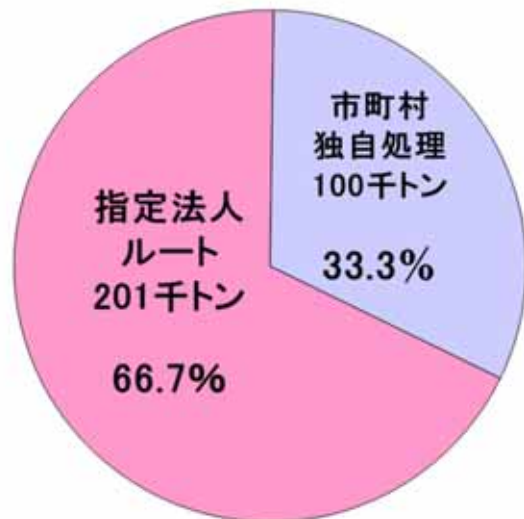


対応

- 平成20年6月以降、計4度にわたり基本方針の主旨について各自治体に周知を行った。
- 平成24年12月に基本方針の趣旨を踏まえた対応を行う予定のない自治体名の公表したところ。

～平成24年度廃ペットボトルの輸出等市町村における独自処理に関する実態調査(環境省)～

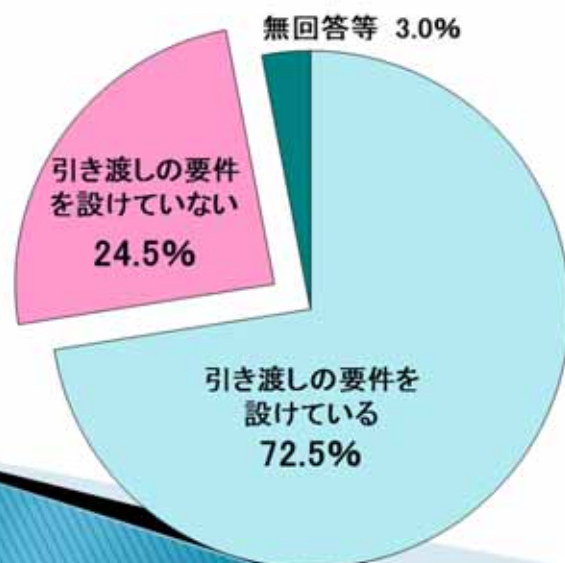
処理量の割合



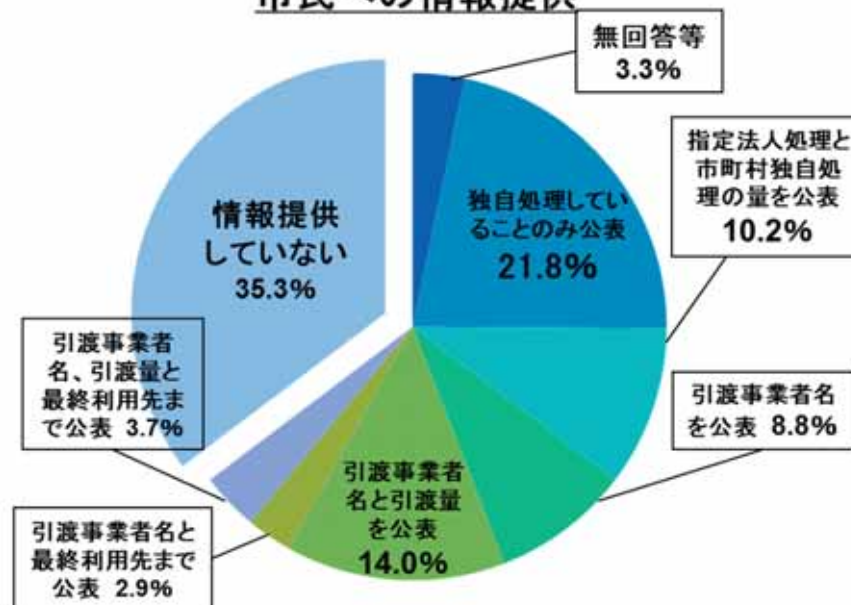
処理方法の採用状況

	自治体数	割合
指定法人ルート	938	58.2%
市町村独自処理	490	30.4%
併用	184	11.4%

事業者への要件の有無



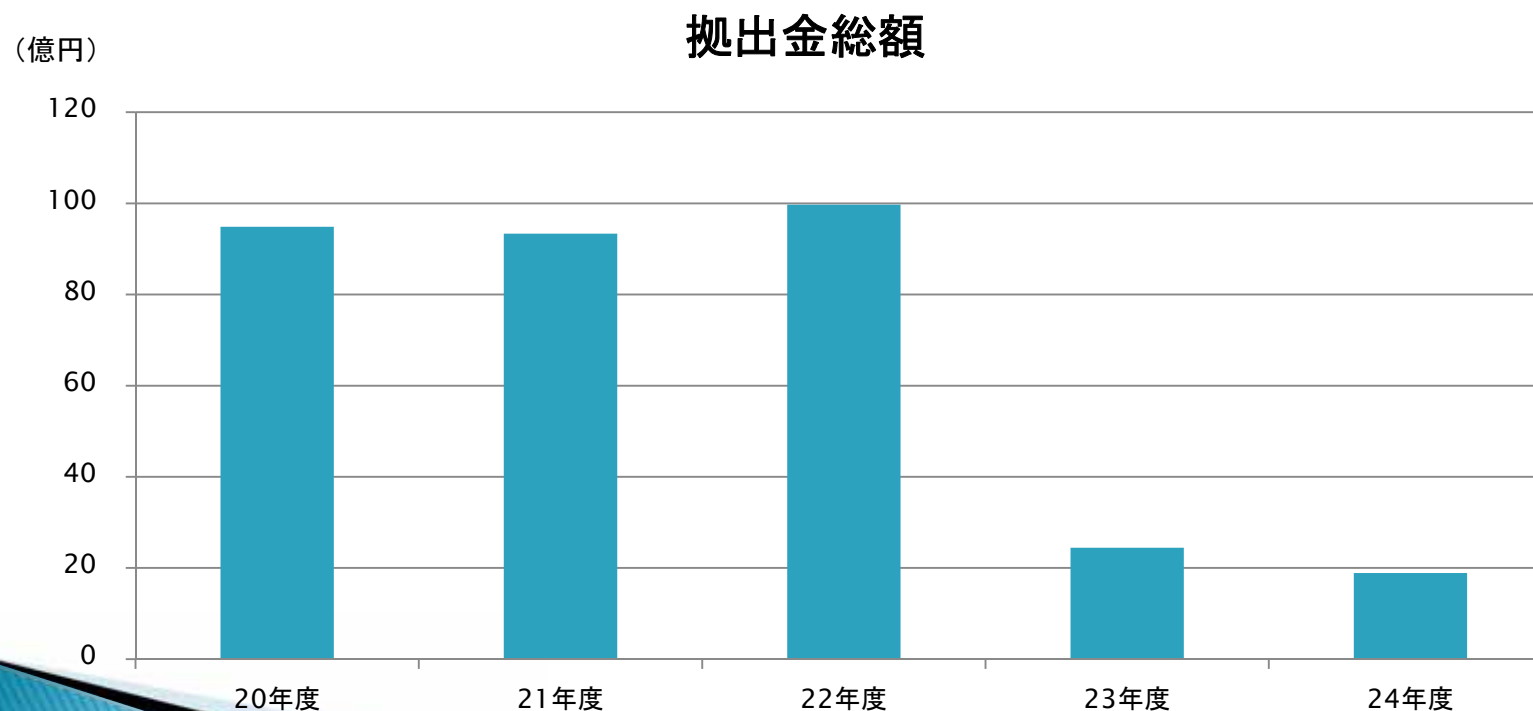
市民への情報提供



5-2 リサイクルの合理化に貢献した市町村への資金拠出制度の状況

市町村が分別収集を徹底したり、事業者が薄肉化等の排出抑制に努めることにより、再商品化過程に引き渡される容器包装廃棄物の質が向上し、量も抑制され、その結果実際の再商品化費用総額が、当初想定していた再商品化費用総額よりも下回ることとなる。市町村合理化拠出金は、この差額のうち、当該市町村の寄与分（差額の2分の1）を市町村に拠出するもので、前回法改正において制度化された。

資金拠出制度導入後、ベール品質も高品質化が進んだ。



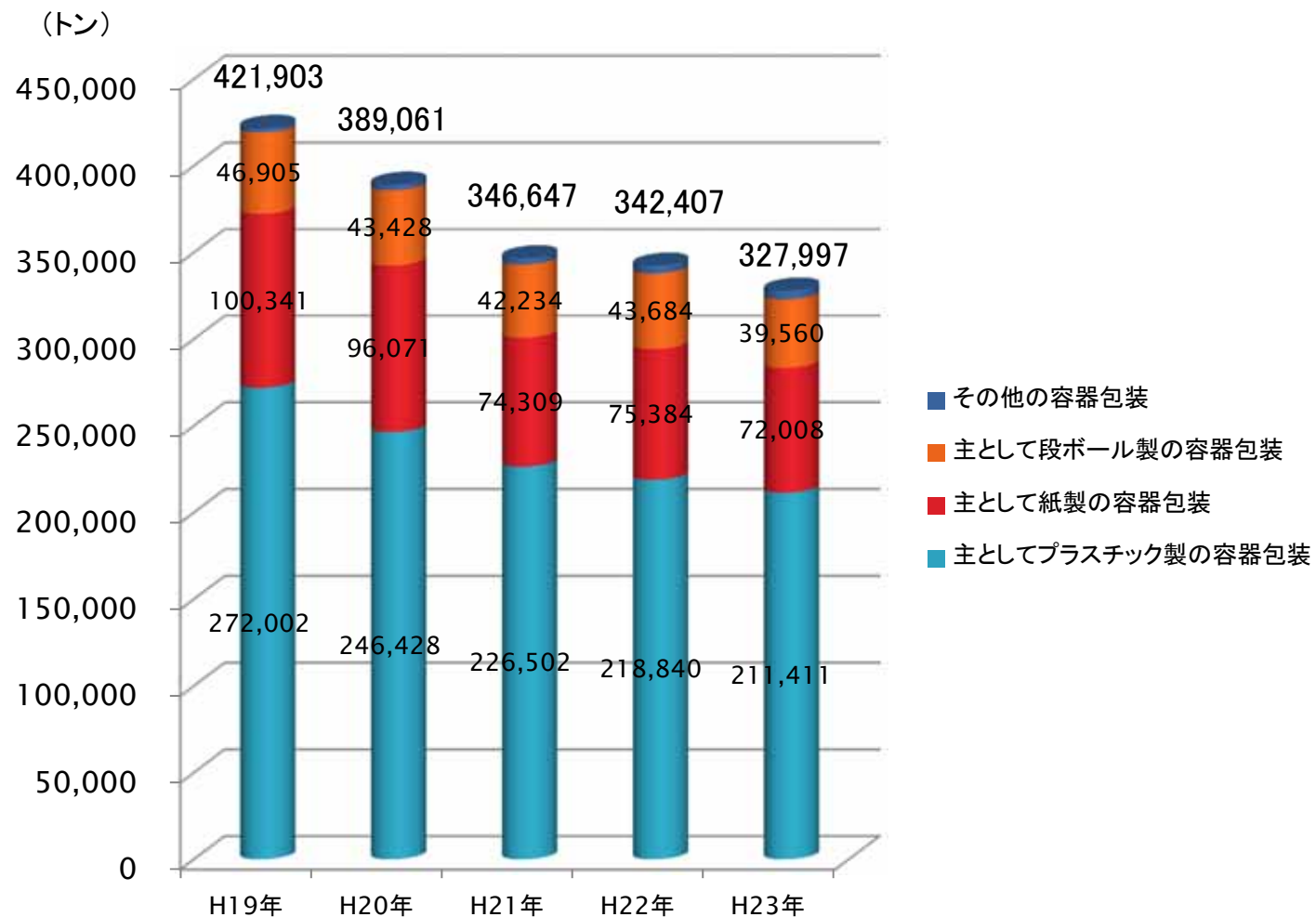
拠出金制度導入後のプラスチック製容器包装べール品質の推移

	Aランク	Bランク	Dランク
容器包装比率	90%以上	85%以上90%未満	85%未満



5 - 3 小売業事業者に係る容器包装排出抑制促進措置

- 定期報告提出事業者の、過去5年間の容器包装使用量の推移について分析したところ、平成23年度実績の容器包装の使用総重量は327,997トンであり、平成19年度実績と比較して約9.4万トン(約22%)減少。

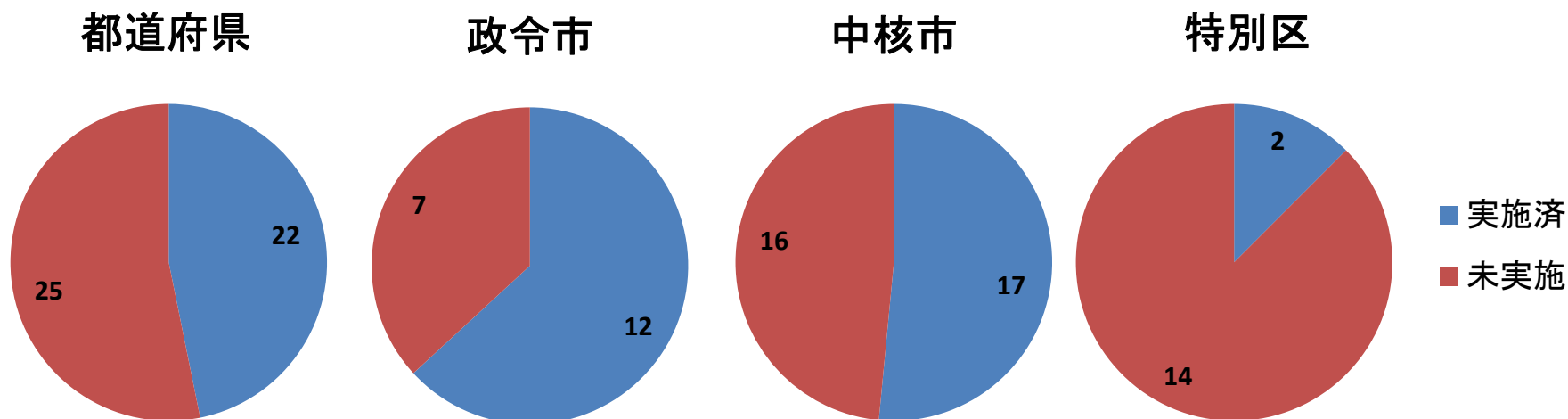


5-4 自治体におけるレジ袋削減の取組について

平成25年2月現在、協定締結によるレジ袋有料化については、都道府県では22件、政令市では12件、中核市では17件、特別区では2件の実施となっている。
また、全都道府県で何らかの方法でレジ袋削減の取組が実施されている。

～平成24年度地方自治体におけるレジ袋削減の取組状況調査(環境省)～

都道府県、政令市、中核市、特別区における協定締結によるレジ袋有料化実施状況



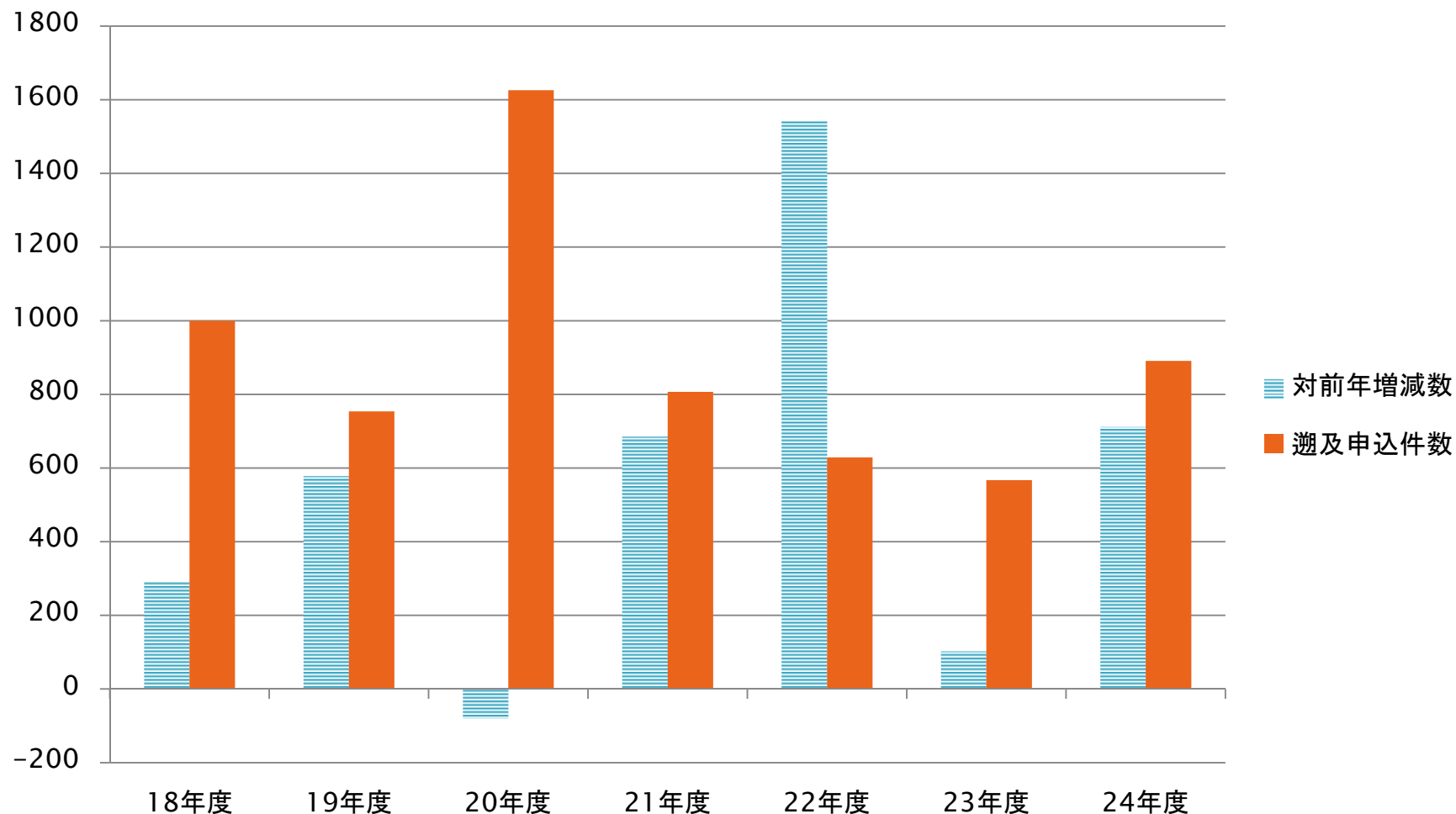
都道府県の協定締結以外のレジ袋削減方策事例

- 岡山県では、毎月10日を「岡山県統一ノーレジ袋デー」として定め、事業者・消費者・行政が協働して「レジ袋受け取らないようにする運動」を展開している。
- 高知県ではスーパーマーケット対抗レジ袋削減コンテスト2012を実施し、各店舗のレジ袋の辞退率を競うことにより、スーパーマーケット業界を挙げて辞退率を改善しCO2の排出削減を目指した。

5-5 特定事業者の遡及申込件数の推移

事業者の開業・廃業、合併・分割等により協会への委託申込み特定事業者数は毎年度増減する（対前年増減数）が、過去年度分の申込みを受け付けた件数（遡及申込件数）の推移は以下のとおり。

（単位：社）



出典：（公財）日本容器包装リサイクル協会